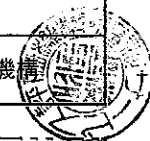


評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	鹿児島県指定 第4672000058号
法人名	社会福祉法人 尚徳会
事業所名	グループホーム 遊花里
訪問調査日	平成 22 年 2 月 24 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 13 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4672000058号		
法人名	社会福祉法人 尚徳会		
事業所名	グループホーム 遊花里		
所在地	鹿児島県 指宿市 山川岡見ヶ水 1211番地 (電話) 0993-35-0220		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 星ヶ峯四丁目 2番6号		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年3月13日

【情報提供票より】(平成21年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	30人	常勤26人	非常勤4人 常勤換算14.2人

(2) 建物概要

建物構造	①鉄骨 ②木造 造り		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(日額)	700 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,080 円		

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.4歳	最低	80歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋口医院	濱田歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな丘陵地帯の広い敷地内に、特別養護老人ホーム、通所介護事業所などの一角にこのグループホームがある。周囲は、温泉地で、ホームも温泉による入浴施設となっている。医療面での連携や緊急時の協力体制ができている。ほとんどの利用者は、入居前から法人の運営するサービスを利用して、馴染みの関係ができている。利用者は、脳機能を活性化するため計算ドリルをしたり、敷地内の菜園で野菜を栽培・収穫したりして、日々の生活を楽しんでいる。職員の資質向上のため、内外の研修会に交代で参加し、また地域のホームとの交流や意見交換も行っている。利用者と職員が楽しく日々の生活を過ごし、明るい雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はなし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が、自己評価・外部評価の意義をふまえて、日々のケアの見直しの機会と捉え、自己評価し話し合いを行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の生活状況や行事・ヒヤリハット報告等を行い、そこでの意見をもとに、サービスの向上に活かせるようにしている。また、市との連携も取れていて情報交換も行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には、家族に積極的に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めている。意見や要望は、話し合いを行い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの保育園児の訪問や小・中学生の体験学習、見学、ボランティアの受け入れを行っている。地域の行事にも、できるだけ参加するようにしている。散歩時は、地域住民と挨拶や会話をしたり、野菜や苗をもらうこともあり、地域との連携に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本に、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、スタッフルームや玄関に掲示している。ミーティング時に、全職員で唱和している。また、パンフレットにも記載して浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園児の訪問、小・中学生の体験学習、見学、ボランティアの受け入れを行っている。地域の行事にも参加している。散歩時は、地域住民と挨拶や会話をしたり、野菜や苗をもらうこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、自己評価・外部評価の意義をふまえて、日々のケアの見直しの機会と捉え、評価をし話し合いを行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催していて、利用者の生活状況や行事、ヒヤリハット報告等を行い、そこでの意見をもとに、サービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。出かけて行って相談したり、見学にこられたりして、情報交換を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの食事・入浴・レクリエーション・状況等を記載した「ゆうかりメール」を隔月に発行して、家族に報告をしている。また、面会時にも話をしている。家族の訪問時には、金銭出納帳を提示し了解のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族に積極的に声をかけている。話しやすい雰囲気づくりを行い、意見や要望があった時は、話し合いを行い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動があるが、できるだけ利用者が馴染みの職員に支援を受けられるように配慮している。新しい職員が入った時は、きちんと紹介して利用者とのスムーズな関係を築くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部研修は、復命書を書いてミーティング時に、発表している。資格取得希望者には、週2回の勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・地区のグループホーム協議会に加入しており、他施設の職員と意見交換や交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスからの利用者が多く、ホームに馴染みがある。状況に応じて、併設事業所の利用を行いながら、徐々にサービス利用ができるように、家族と相談し工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや趣味の話の聞いたり、花や野菜の育て方を教わったりして、日々の生活を過ごしている。夜勤時に、思いやりの声かけがあったりして、利用者に励まされることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が行きたいところや食べたいもの等の要望には、できる限り添えるように努めている。必要に応じて、家族からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の課題について、モニタリングにより、利用者・家族・職員等の意見を参考にしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の介護経過、3ヶ月に1回のモニタリングを行っており、6ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の状態が変化した時は、その都度担当者会議を行い見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとって、通院・自宅訪問等、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受けられるように支援している。主治医の週2回の往診があり、24時間連絡ができ、緊急時の対応もできる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・主治医・全職員と相談しながら、重度化や終末期の方針の共有がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に応じて尊厳を損ねないように対応を行っている。記録簿の取り扱いも、スタッフルームに保管して漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事の時間等の事業所の一日の流れはあるが、個々のペース・体調に合わせた生活の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で作った野菜を収穫し調理したり・台拭き・配膳・下膳等を、職員は利用者と一緒にいき、食事を楽しんでもらえるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングに合わせた支援を行っているが、入浴が好きでない方には、声かけの仕方を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや居室・玄関の掃除・食事の配膳・下膳等、一人ひとりの出番が見出せる場面づくりの支援を行っている。畑仕事やカラオケの楽しみごとや化粧・外出などの気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物・ドライブ・初詣・自宅訪問等、一人ひとりの希望に添った外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中、鍵をかけることをしないで、出かける様子の時は、さりげなく声かけや付き添いをして、自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回防災訓練を行っている。また、ホームで毎月、火災・地震想定での訓練を行っている。事業所としての緊急連絡網を作成するとともに、災害時への備蓄もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録している。食事形態も一人ひとりにあわせて工夫している。栄養面でも法人内の栄養士の指導の下にバランスある食事づくりに取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にプランターがあり、建物の東側に菜園がある。広いリビングにテーブルがあり交流の場になっており、季節の草花やちぎり絵の作品が飾られている。また、ソファが置いてあり、居心地よく過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた布団や籐いす・衣装かご・箆箆・夫や家族の写真・位牌・自分で書いた作品等、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。